

核果類を中心とした果樹の生育前進化に伴う対応について

平成27年6月8日
農業技術課

4月下旬以降高温で経過したため、果樹の各品目とも生育が前進化している。既に終了した南信地域のウメの収穫期は昨年より5日程度早くなった。

果樹試験場のモモ「白鳳」の収穫期予測では、収穫始めが本年は7月26日となり、平年に比べ8日、昨年に比べ7日早まる予測となっている（表1）。

満開日は平年と同日であったが、第一肥大期（満開0～39日間）の平均気温が平年より2.8℃高かったため、第二肥大期（硬核期）までの日数が短縮され、結果として収穫開始までの日数が平年より8日短くなる予測となっている。

また、モモの他品種やネクタリン、日本スモモ、プルーン等、他の核果類についても、成熟が前進化することが予想される。

このため、今後の栽培管理、収穫・出荷にあたり、下記のことに留意する。

- 1 収穫期が平年より早まることを踏まえて、病虫害防除の薬剤使用時期（収穫前日数）を十分考慮して、農薬を選択し散布を行う。
- 2 収穫期が前進化することが予想されるため、収穫作業や選果施設の稼働準備を計画的に行う。

（参考）

表1 平成27年度 モモ「白鳳」収穫期予測結果（長野県果樹試験場）

	満開日	満開0～39日の 平均気温	満開から収穫始めまで の日数		満開から収穫盛りまで の日数	
H27	4月24日	18.2℃	93日	7月26日	97日	7月30日
H26	4月28日	17.3℃	96日	8月2日	100日	8月6日
H25	4月24日	15.5℃	101日	8月3日	105日	8月7日
H24	4月28日	16.2℃	99日	8月5日	103日	8月9日
平年	4月24日	15.4℃	101日	8月3日	105日	8月7日

注）本年（H27）、H26、H25、H24は予測式に基づく予測値。平年は果樹試験場育種部の実測値の平均（S56～H26）。